

November 17, 2025

【前日の為替概況】ドル円、153.62 円まで下押し後、154.74 円前後まで持ち直し

14 日のニューヨーク外国為替市場でドル円はほぼ横ばい。終値は 154.55 円と前営業日 NY 終値 (154.56 円) と比べて 1 銭程度のドル安水準だった。米長期金利の低下をきっかけに円買い・ドル売りが先行。日米株価指数先物や欧州株相場の下落を背景にリスク回避の円買い・ドル売りが入ると、22 時 30 分前に一時 153.62 円と日通し安値を更新した。

ただ、売り一巡後は買い戻しが優勢に。ナイト・セッションの日経平均先物やナスダック総合がプラス圏を回復するなど、日米株価が底堅く推移するとドル円にも買い戻しが集まった。米長期金利が上昇に転じたことも相場の支援材料となり、2 時過ぎには 154.74 円付近まで持ち直した。「政府が近く策定する総合経済対策の規模は 17 兆円台になる見通し。ガソリン税などに上乗せされる旧暫定税率の廃止による大型減税も盛り込む」との報道も買いを後押ししたようだ。

もっとも、欧州時間に付けた日通し高値 154.76 円が目先レジスタンスとして意識されると上昇は一服し、NY 午後に入ると 154 円台半ばで次第に値動きが鈍った。

なお、10 月の米連邦公開市場委員会 (FOMC) で利下げに反対し、金利据え置きを主張したシュミッド米カンザスシティ連銀総裁は「10 月の反対意見表明の根拠は、12 月に向けても私の指針となっている」と述べたほか、ローガン米ダラス連銀総裁も「10 月は据え置きを望んだ」「12 月の会合で追加利下げを支持するのは難しい」などと話した。一方、ミラン米連邦準備理事会 (FRB) 理事は「データは利下げを支持」「FRB の政策姿勢を一段とハト派的に変えるべきであり、弱めるべきではない」などと語った。

ユーロドルは 4 営業日ぶりに小反落。終値は 1.1621 ドルと前営業日 NY 終値 (1.1633 ドル) と比べて 0.0012 ドル程度のユーロ安水準だった。米長期金利が低下するとユーロ買い・ドル売りが先行し、22 時過ぎに一時 1.1654 ドルと日通し高値を更新した。

ただ、前日の高値 1.1656 ドルや 10 月 29 日の高値 1.1666 ドル、同月 28 日の高値 1.1669 ドルがレジスタンスとして意識されると失速。米長期金利が上昇に転じたことなども相場の重しとなり、1 時前に 1.1606 ドルと日通し安値を更新した。

ユーロ円は 6 日ぶりに反落。終値は 179.61 円と前営業日 NY 終値 (179.80 円) と比べて 19 銭程度のユーロ安水準。日本時間夕刻に一時 179.97 円と 1999 年のユーロ導入以来の高値を付けたものの、株価の下落を背景にリスク回避の円買い・ユーロ売りが入ると一時 178.98 円と日通し安値を付けた。ただ、ドル円の持ち直しにつれた買いが入ると 179.70 円付近まで下げ渋った。

【本日の東京為替見通し】ドル円、Q3GDP を見極めた後は、155 円の攻防戦に要警戒か

本日の東京外国為替市場のドル円は、7-9 月期実質国内総生産 (GDP) 速報値を見極めた後は、155 円を巡る攻防戦に警戒していく展開が予想される。

8 時 50 分に発表される 7-9 月期実質国内総生産 (GDP) 速報値は、前期比▲0.6%、前期比年率▲2.4%と予想されており、6 期ぶりのマイナス成長への転落が見込まれている。

物価高の影響から、実質個人消費の増加率が前期の前期比+0.4%から大きく鈍化することが見込まれている。さらに、前期に同+2.0%と大幅に増加した輸出が、トランプ関税導入前の駆け込みの反動や関税導入による米国での販売鈍化の影響でマイナスに転じることが見込まれている。

高市政権は、17 兆円規模の総合経済対策を策定し、ガソリン税などに上乗せされる旧暫定税率の廃止による大型減税も盛り込むと報じられており、「サナエノミクス」(責任ある積極財政+金融緩和) がドル円を下支えしていく構図が確認されることになる。

一方で、高市政権は、物価高対策を喫緊の政策課題に掲げており、コストプッシュ型インフレに拍車をかける円安を抑制すべきだと思われるが、日銀に対して利上げを抑制するスタンスは矛盾していることになる。

さらに、物価高対策としての積極財政が、円安を通じて物価高対策の効果を削ぎかねないことも矛盾点となっている。

円安の抑制を管轄している財務省からは、ドル売り・円買い介入が示唆される「断固たる措置」などの強い口先介入は今のところ発せられていない。

三村財務官は 5 日に「ドル円の動きと日米の公債の金利差の推移を見ると、最近はやや乖離が見られる」

「ボラティリティーの変動がファンダメンタルズに関連する要因で必ずしも説明できない場合、やや無秩序なあるいは過度な動きと言える」と述べた。

片山財務相は 12 日に、「為替相場の動向の経済への影響はプラス面、マイナス面があるが、マイナス面が目立ってきたことは否定しない」「投機的な動向を含め、為替市場の過度な変動や無秩序な動きについて高い緊張感を持って見極めている」と述べたが、155 円が防戦ラインとは感じられない発言だった。

ドル円の 155 円を「第 1 防衛ライン」、160 円を「第 2 防衛ライン」と想定して、昨年 11 月 14 日に米国財務省が公表した「外国為替報告書」での円安牽制の文言の変化を待つことになるのかもしれない。

【本日の重要指標】※時刻表示は日本時間

<国内>

- 08:50 ☆ 7-9 月期実質国内総生産（GDP）速報値（予想：前期比▲0.6%／前期比年率▲2.4%）
- 13:30 ◇ 9 月鉱工業生産確報
- 13:30 ◇ 9 月設備稼働率

<海外>

- 16:30 ◇ 7-9 月期スイス鉱工業生産
- 17:15 ◎ デギンドス欧州中央銀行（ECB）副総裁、講演
- 22:15 ◇ 10 月カナダ住宅着工件数（予想：27.50 万件）
- 22:20 ◎ マン英中銀金融政策委員会（MPC）委員、講演
- 22:30 ◎ 10 月カナダ消費者物価指数（CPI、予想：前月比 0.2%／前年比 2.2%）
- 22:30 ◇ 9 月対カナダ証券投資
- 22:30 ◎ 11 月米ニューヨーク連銀製造業景気指数（予想：6.7）
- 23:00 ◎ ウィリアムズ米ニューヨーク連銀総裁、あいさつ
- 23:30 ◎ ジェファーソン米連邦準備理事会（FRB）副議長、講演
- 23:45 ◎ レーン ECB 専務理事兼チーフ・エコノミスト、講演
- 24:00 ◇ 8 月米建設支出
- 18 日 01:00 ◎ チボローネ ECB 専務理事、講演
- 18 日 03:00 ◎ カシュカリ米ミネアポリス連銀総裁、講演
- 18 日 05:35 ◎ ウォラーFRB 理事、講演
- メキシコ（メキシコ革命記念日）、休場

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

【前日までの要人発言】

14 日 05:36 カシュカリ米ミネアポリス連銀総裁
「データは 10 月の会合以降、状況は変わらないことを示唆」
「労働市場には確かに弱点があるようだ」
「12 月の利下げについてはまだ強い意向はない」

14 日 05:44 米労働省労働統計局(BLS)
「データ公表の予定は分かり次第通知する」
「状況を把握、日程を最終決定するのに時間かかる可能性」

14 日 08:37 城内成長戦略相
「円安、輸入物価を通じて CPI を押し上げる効果がある」

14 日 21:55 チャベスデリマー米労働長官
「米労働統計局は、10 月の CPI のデータを完全に収集出来ていない」
「10 月 CPI を発表できるかわからない」

14 日 22:57 グリア米通商代表部(USTR)代表
「米国はスイス製品への関税を 15%に引き下げる予定」
「スイスは米国への 2000 億ドルの投資で合意」
「スイスには EU 並みの 15%の関税を課す」

15 日 00:35 シュミッド米カンザスシティ連銀総裁
「追加利下げでは雇用市場の亀裂は修復されない」
「インフレに対する懸念は関税だけにとどまらない」
「10 月の反対意見表明の根拠は、12 月に向けても私の指針となっている」
* 10 月 FOMC では利下げに反対し、金利据え置きを主張

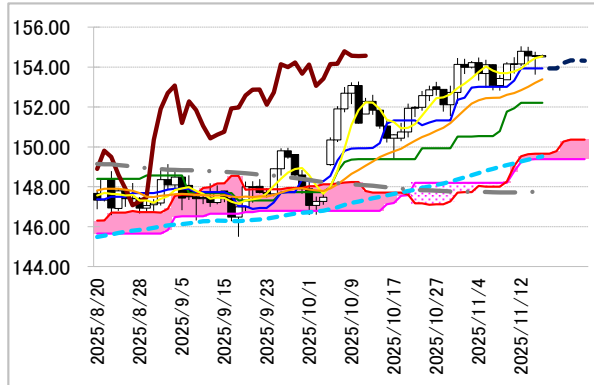
15 日 04:07 ミラン米連邦準備理事会(FRB)理事
「データは利下げを支持」
「データは FRB の政策姿勢を一段とハト派的に変えるべきであり、弱めるべきではない」
「過去を振り返るデータに基づいて政策を策定するのは間違い」
「賃金の上昇は鈍化」
「金融政策は将来を見据えたものでなければならない」

15 日 04:46 ローガン米ダラス連銀総裁
「12 月の会合で追加利下げを支持するのは難しい」
「9 月の利下げを支持、10 月は据え置きを望んだ」
「データと金融情勢の進展を注視」
「インフレ率は高すぎる水準にあり、さらに上昇傾向にある」
「労働市場は冷え込んでいる」
「労働市場は概ね均衡がとれている」
「雇用とインフレの両方にリスクが存在」
「12 月の利下げを支持するためには、インフレ率の低下、あるいは労働市場の悪化を示す、説得力のある証拠が必要」

15 日 05:05 米労働省労働統計局(BLS)
「9 月米雇用統計は 11 月 20 日に発表」

※時間は日本時間

〔日足一目均衡表分析〕

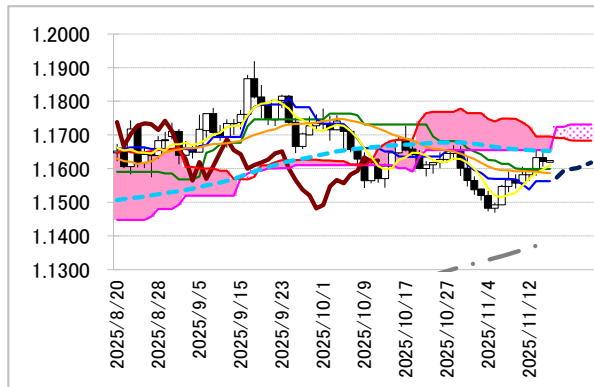


＜ドル円＝転換線前後の底堅さ背景に上値試す展開続くか＞

下影極小陰線引け。一時 153.62 円と、一目均衡表・転換線 153.93 円を割り込む下振れとなった。

しかし反発して 154 円半ばへ戻して週の取引を終えている。今後の上昇が見込まれる転換線前後の底堅さを背景に、上値を試す展開が続くとみる。ただ、上値も重いため、先週末程度の下振れを交えて不安定に推移する場面も想定しておきたい。

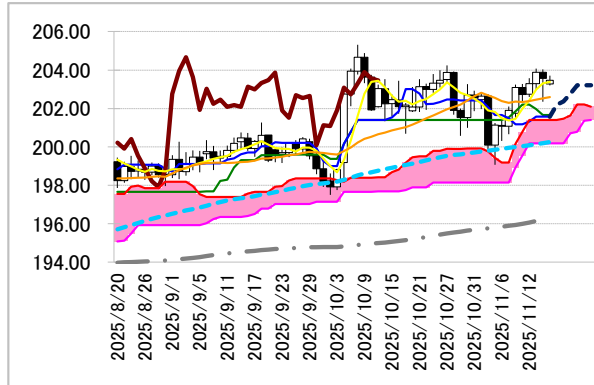
レジスタンス 1	155.04(11/12 高値)
前日終値	154.55
サポート 1	153.93(日足一目均衡表・転換線)
サポート 2	153.36(11/10 安値)



＜ユーロドル＝変わり目となりやすい雲の捻じれ局面＞

小陰線引け。一目均衡表・雲の下限 1.1656 ドルや、1.1653 ドル前後で推移する 90 日移動平均線付近で上値重く推移した。まだ重さを引きずりそうだが、相場の変り目となりやすい雲の捻じれに差し掛かる。雲の下限が明日には 1.1691 ドルに切り上がることもあって、上値を試しやすくなるだろう。下値は上昇が見込まれる一目・転換線が支えとなりそう。

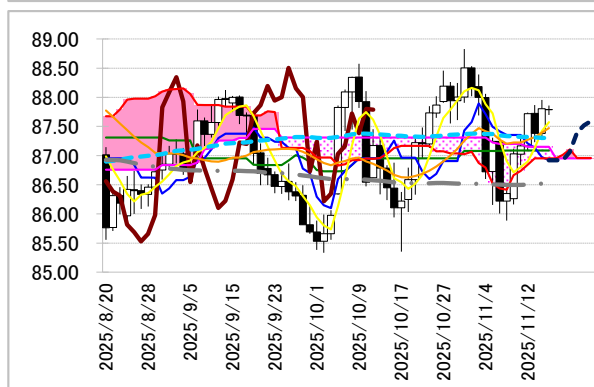
レジスタンス 1	1.1696(日足一目均衡表・雲の上限)
前日終値	1.1621
サポート 1	1.1563(日足一目均衡表・転換線)



＜ポンド円＝21 日線前後の底堅さが頼り＞

下影陰線引け。202.35 円まで下振れが先行した。202.50 円台で推移する 21 日移動平均線を下回った同水準では下げ渋り、203 円半ばへ戻した。引き続き同線前後の支えを頼りに、204 円付近の重さ払拭に挑む流れを予想する。

レジスタンス 1	204.24(10/27 高値)
前日終値	203.56
サポート 1	202.59(21 日移動平均線)



＜NZドル円＝下押しあっても基準線が下支えに＞

陽線引け。一時 87.96 円まで上昇した。4 日以来の 88 円台を目前にやや足踏みも底堅い推移が続くとみる。足もとの上下を考慮すれば、87.30 円前後でまだ低下余地を残す 90 日移動平均線前後へ引き寄せられるような下押しも想定しておくべきだが、多少割り込んでも一目均衡表・基準線 87.09 円が下支えとなりそう。今後の上昇が見込まれる一目・転換線 86.92 円も、次第にサポートとして効いてきそう。

レジスタンス 1	88.39(11/3 高値)
前日終値	87.80
サポート 1	87.09(日足一目均衡表・基準線)

